

飯盛塚

大寺を歩く

豊和地区大寺は、地名の由来に関係するとみられる龍尾寺を中心に古くから開けた地域です。もとの寺跡からは奈良時代前期のものと推定される瓦が見つかっていて、709年を創建年とする寺の歴史を裏付けるものでしょう。

それから580年ほど経た1290年に造られた仏像に「匠瑳北条庄大寺郷」と刻まれ、平次太郎入道たいしらのしやうろうにゅうどうという人物がこの像を寄進したことが知

られています。さらに龍尾寺境内の平石の供養塔である板碑いちはいには、1343年と1373年の年号があり、これらも大寺地域の歴史を伝えるものです。

龍尾寺に伝わる1418年の記録には、「北条庄大寺郷内飯盛塚笠懸屋敷」という場所が記され、関連する文書を鎌倉・鶴岡八幡宮(神奈川県鎌倉市)が所蔵し、この2通の文書から次のことが知られ

ます。

当時大寺郷を支配していたとみられる河戸氏が飯盛塚の敷地に聖禅寺を建て、田畑も寺に寄進するといったもので、寺側では祈禱きとうに励むようにと、当時下総国の守護であった千葉兼胤かねたねが河戸氏の申請を認め、その所領を保証

するという内容でした。それから3年ほどして聖禅寺・釈迦堂の管理権が鶴岡八幡宮に關係する寺院に与えられました。椿湖を見下ろす飯盛塚の台地に建てられた聖禅寺が千葉兼胤の仲介により鶴岡八幡宮との関係が生まれました。しかし、1430年の兼胤死亡後に寺は衰退していったように、同寺の創建を1555年とする記録もありこのころに再興されたのでしょう。

江戸時代の1764年の記録には「妙見鋪みよみ」とあり、寺に隣接して神社があることが知られ、明治初年の「檀家数18戸」は当時からのものではないでしょう。

現在飯盛塚には「妙見宮」がまつられています。妙見信仰は千葉氏が守護神としたことから、この妙見宮は河戸氏が聖禅寺を創建した1418年ごろ、あるいは社伝にある1398年にまつられたと考えられます。

明治初年の記録には「氏子数12戸」とあり、この子孫が「妙見宮講中」となり神社を守っているのでしょう。

(元 市職員・依知川雅一)

問 秘書課広報聴班

☎ 73・0080



飯盛塚にまつられている妙見宮